

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

NOI 岡山の会報第5号をお届けします。19年ぶりに再開後、2年目の活動も順調に進んでおります。年次総会を6月17日(土)に、操山公園里山センターで開催し、総会後は第4回目の自然観察会を操山公園内で実施しました。続いて9月10日には第5回目の自然観察会を美咲町で開催しました。8月26、27日の両日に実施された中国地方5県の交流会の様子とともに報告します。

今後は、今年11月にはNACS-Jの自然観察指導員講習会が、昨年に続いて実施されることになり、当会も共催として私を含めて9名の方が運営に協力いたします。来年度には、中国地方5県の交流会も岡山県で開催されることが決まっています。会員の皆様と一緒に、自然観察を通じて自然の不思議さを実感しながら、充実した楽しい時間を持ちたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

2017年度今後の活動日程

1. NACS-J 自然観察指導員講習会
NOI 岡山との共催で、11月11日(土)、12日(日) 国立吉備青少年自然の家 (NACS-J の担当: 福田)
2. 第6回自然観察会
12月3日(日) 湯原湖 (担当: 宮林)
3. 新年会
平成30年1月27日(土) (担当: 山根)
会場: 和さび岡山店 (予定)
4. 第7回自然観察会
平成30年3月か4月に開催予定 (未定)

第6回自然観察会の案内

宮林

- 開催日: 2017年12月3日(日)
 - 湯原湖にやってきた冬鳥たちに会いに
 - 集合 午前9時 健康ランド湯原ひまわり館
0867-62-7080
トイレあり。入浴料500円。
 - 持ち物 お茶、軽食、双眼鏡、あれば野鳥図鑑、筆記用具、雨具(お天気が変わりやすい) 寒さが予想されます。コート他に手袋、冬用帽子など防寒対策をお願いします。
 - 見所 昨年はヤマセミ(留鳥)が出て、水面すれすれに何度も旋回していました。下湯原湖で
 - 解散 12時。
 - その他 落合野鳥の会との共催。
- 越冬にやって来たカモたちの観察。2時間。オシドリ、キンクロハジロ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、ヨシガモ、コガモ、ホシハジロ、オオバンなど。多数見られるカルガモは日本で繁殖し、通年見られる留鳥です。その後、奥湯原湖に行き、溪畔林を散策します。1時間。カシラダカ、アトリ、ジョウビタキなどの冬鳥の他、ヤマガラ、ゴジュウカラなど小鳥たちが迎えてくれるでしょう。

2018年度中国地方5県交流会の予定

西本

来年度の交流会は岡山県が担当します。日程は2018年10月27日(土)、28日(日)に蒜山や新庄村を会場にして開催する予定にしています。スタッフとしてぜひともお手伝いください。

岡山県自然観察指導員連絡会へのお誘い

西本

日本自然保護協会の自然観察指導員に登録されている方で、岡山県連絡会に参加を希望される方は、下記のところまで連絡してください。会員になると、自然観察会などを通じた交流や、機関誌などを通じた会の情報をお知らせします。宣伝してください。申込先は次のとおりです。

〒701-2141 岡山市北区牟佐944-1 西本 孝。Eメールは taknishi@js4.so-net.ne.jp。

会費納入のお知らせ

西本

2017年度会費をお願いします。下記の郵便局で口座振り込みにより会費や寄付を納入してください。活動資金として活用させていただいています。

- ゆうちょ銀行 記号15440 番号38433761 NOI岡山 (手数料は各自でお願いします)
- 他金融機関からの振り込み 店名五四八 店番548 普通預金 3843376

9月10日(日)、私たちの住居近くで第5回自然観察会が開催されました(写真1)。美咲町の西部、東井和(ひがしはが)地区、標高約300mの中山間地です。圃場整備をされた広い田が多い中で、不定形の小さな棚田が重なっている一角が私たちのフィールドです(写真2)。ほとんどの田は何年も放置されて荒れていました。私たちは僅かでも里山環境を保全したいと考え、4年前からその一部を借りて手入れをしています。2人でできることには限りがありますが、動植物の観察を楽しみながら少しずつです。



写真1. 石原さん宅前で記念撮影。



写真2. 棚田を利用した田んぼビオトープ。

さて、自然観察会です。まず田の畦を歩いて植物観察。サワヒヨドリ・オミナエシ・サクラタデ・アカバナ・ミソハギなどが開花中です。参加者の方に、ヌルデ、ダンドボロギクなどの生態を教えてくださいました。



写真3. サワヒヨドリ。



写真4. オミナエシ。



写真5. サクラタデ。

次に「田んぼビオトープ」で動植物の観察。ここは放棄された湿田で、マコモやイが繁茂し、一部はイノシシの「ぬたば」となっていた場所です。マコモなどの根茎を取り除き、イノシシに何度も壊される畦をその都度補修して、苦節3年でようやく畦が固まり、しっかり水を溜めることができるようになりました。毎年2~3月にはニホンアカガエルが産卵し多い年には400卵塊を数えたことも。カスミサンショウウオも産卵に来ます。今日はガムシ(写真6)・クロゲンゴロウ・マツモムシ・ミズカマキリ・タイコウチなどの水生昆虫、ニホンアカガエル・トノサマガエルなどを観察することができました。偶然、タマムシがやってきて眼に止まってくれました(写真7)。植物ではミズオオバコ(岡山県、環境省RDBで絶滅危惧Ⅱ類)が清楚な白い花を多数咲かせています(写真8)。かつては水田雑草とされた植物だったようですが、水田環境の変化や除草剤の影響などで激減。ここでは環境整備と攪乱によって、泥の中に眠っていた種子から芽生えて、多くの花が咲き、見事に復活してくれました。



写真6. ガムシ.



写真7. タمامシ.



写真8. ミズオオバコの群生.

次にカヤネズミの営巣場所へ。昨年は多数の巣が見られたのに、今年はカサスゲの生育が悪く、新しい巣は1個だけしか発見できず残念でした（写真9）。参加者の方がニホンアカガエルやチョウセンカマキリを巧みに捕まえて、近似種との見分け方を説明してくださいました（写真10）。



写真9. カヤネズミの巣.



写真10. 山田さんがニホンアカガエルを捕まえた.

昼食を私たちの家の庭で、水浴びに来る鳥を眺めながら、ゆったりとした気分で皆さんと一緒に会話を楽しみながら食べました。午後は「ミニ自然観察コース」として整備途中の雑木林の中を案内（写真11と12）。コバノガマズミ・リョウブ・ウワミズザクラなどが多い林です。シュンラン・ササユリ・セトウチホトトギスなどの保護をしています。

不便な所へ来ていただいた皆様、どうもありがとうございました。他の会員の方も含め、また気軽においでください。会員間で気楽に情報交換や交流ができるようになれば良いかと常日頃思っています。



写真11. 雑木林の中での観察会.



写真12. 雑木林での手入れの様子を説明中.

2017年8月26日(土)と27日(日)に開催された交流会の様子と、新たな自然保護の取り組みについて紹介します。

岡山ICから周防大島までは車で3時間30分ほど、ずいぶん遠いことが実感できました。島の道路は整備されており、至る所にしゃれた喫茶店、海水浴場や民宿などの施設があり、多くの観光客が訪れていました。その中でも目に付いたのが老人福祉施設でした。眺めが良く、気候が温暖であるためなのでしょう。

さて、山口県の指導員の方が準備してくださったのは、1日目にはニホンアワサンゴという珍しいサンゴの群生地の紹介、2日目には往還道という昔の人たちが生活のために使っていた古道を復活させて、自然観察のモデルコースをつくろうという試みの紹介、でした。ニホンアワサンゴは、黒潮の影響を受けた本州南岸沿って点々と分布しているサンゴですが、中国地方では周防大島の地家室という地域にだけ分布し、豊後水道から北上した黒潮が直接ぶつかるため、しかも群生している範囲が広いことが特徴だということです。

参加した30名ほどは講義を聞いた後(写真1)、2艘の釣り船に乗り込み、沖合にある岩礁の周りで碇を下ろして観察しました(写真2)。海中に潜ったダイバーは、地上の解説者からの指示を受けて、様々な角度からの映像を撮影してくれました(写真3)。サンゴの実況中継です。サンゴの群生は、主に2つの要因が重なってつくられていて、一つは、海中からミネラル分を多く含んだきれいな水がわき出してくること、もう一つは、磯焼け現象で海藻類が減少したために海中深くまで光が届くようになったこと、です。

ミネラル分を含んだ水は陸上のアベマキ林で作り出されていることが調査の結果わかったそうです。アベマキの落葉が積み重なって次第に分解されて養分になり、それが雨水に溶け込んで地下に入り、長い時間かけて地下の隙間を流れて海中からわき出しているそうです。その証拠に、海中は浅い部分は泥水のために視界が悪いが、海底に近くなると透明度が増えています。地下からのきれいな湧き水があるからです。湧き水や磯焼け現象が重なって、希少なサンゴが護られているということがわかり、自然の複雑さを改めて実感することができました。夕焼けはとても美しかった(写真4)。

朝日に迎えられた2日目は(写真5)、沖合に前日に見たサンゴのある地家室の漁港(写真6)から昔の生活道を歩いて自然観察をするという行程でした。



写真6. かつて瀬戸内航路の寄港地としてにぎわった地家室の集落。



写真1. ニホンアワサンゴの講義を聴く。



写真2. 岩礁の近くに潜るダイバー。



写真3. 講師の解説と海中からサンゴの実況中継。



写真4. 宿から見た夕焼けは美しかった。

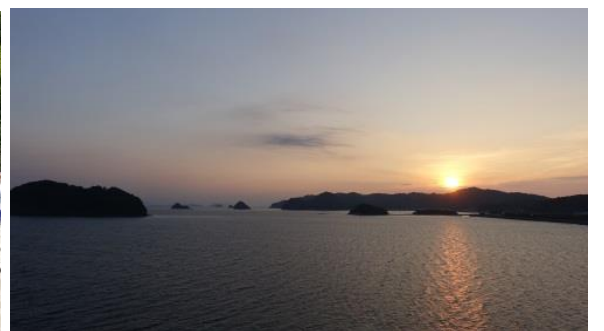


写真5. 朝日もばっちり見えた。

往還道と呼ばれる古道で、地域の自然を紹介するモデルコースとして、かつて中学生だった頃に実際に学校まで毎日歩いて通っていたという方の案内で、昔話を聞きながら島の自然の特徴を聞くことができました。

島でありながら豊富な水があるため(写真7)、瀬戸内海航路の拠点の一つとして発展した地家室には、遊郭がつくられたことから、多くの人が行き交う往還道は造られたそうです。



写真7. 豊富な水量の滝。

途中には石風呂がありました(写真8と9)。石風呂はサウナのごとく、薬効のある草を敷き詰めた蒸し風呂に入ることによって病気を治したという言い伝えがあります。花崗岩が出るので、岩を砕いて石垣を築いて畑をつくり、滝の水を利用して多くの作物を得ていたそうです。海運が盛んだった昭和30年代までは、昔からの富を背景にして多くの人が行き交う場所でしたが、その後放置されてしまい、今ではつる植物が生い茂り(写真10)、民家の周りに植えられたモウソウチクが一面に広がっていました(写真11)。

Uターンで地元に戻った人たちの努力により、往還道は復活しました(写真12~15)。竹を切り、アベマキやコナラなどの広葉樹の森を再生させて、サンゴへの栄養分を供給するという試みも始まっています。地域の人たちが、サンゴという希少な生きものを護るために、どうしたら良いのかを考えた結果として、観光客を誘致して古道を歩きながら自然を楽しんでいただき、同時に、広葉樹の森を再生することをイベントすることにまで思い至ったことに敬服すると共に、地域の自然とどのように向き合ったら良いのかを考えさせられる良い機会となりました。



写真8. 石風呂の看板も石でできていた。



写真9. 花崗岩をくりぬいてつくられた石風呂。



写真10. つる植物で覆われた民家。



写真11. 石垣の上は畑だったが・・・今では竹林に覆われてしまいました。



写真12. 往還道の説明板。



写真13. 往還道の入り口を示すのぼり。



写真14. 往還道の経路を示す案内板の前で解説する案内人。



写真15. 瀬戸内海の海と島の眺めは素晴らしい。